

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月28日

【評価実施概要】

事業所番号	3292200023		
法人名	社会福祉法人愛宕会		
事業所名	グループホームさくら荘		
所在地 (電話番号)	島根県隠岐郡隠岐の島町郡582-1番地 (電話) 08512-5-9111		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地 松江市民活動センター3階		
訪問調査日	平成19年6月26日	評価確定日	平成19年7月29日

【情報提供票より】(19年 3月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 3人, 非常勤 5人, 常勤換算 7.4 人	

(2)建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り 364㎡	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		850 円

(4)利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	5名	要介護2	2名
要介護3	2名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 86.9歳	最低 78歳	最高 92歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	隠岐広域連合隠岐病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>保育園を改装した開設十一ヶ月目のグループホームである。緑豊かな環境の中にあり、地元の利用者が多く、家族や地域との馴染みの関係はスムーズに作られている。外出支援を重視し、個々の生活暦を踏まえて「出来ること」への支援に力をいれている。利用者の手紙や電話への支援も行われるなど、利用者の立場を尊重した活動が行われている。管理者の「笑顔が一番」の考えの下、計画立案者との連携も強く、職員はさまざまなことに挑戦しようと意欲的であり、今後のサービス向上に期待が持てるホームである。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価項目に沿ってそのねらいや活用方法などを全職員で検討し、日々のサービス向上に取り組んでいるが、計画的に全職員で取り組み業務改善に活かすことは今後の課題である。</p>
	<p>② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者のホームでの様子や諸行事などが報告されたり、参加者から出された意見や要望などが具体化され運営やケアにも活かされている。この間の会議を通じグループホームへの理解も深まり、参加者同士の交流の場にもなっているが議題に苦慮している面もある。</p>
重点項目	<p>③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者は地域の人が多く、家族と職員はなじみの関係ができており、意見・苦情・相談等は率直に職員に伝わっている。運営推進会議でも家族が意見を言いやすいように配慮され、出された意見は運営に反映されている。家族への報告は口頭や電話等で行われている。</p>
重点項目	<p>④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常の買物や散歩などを通じ地域の人との馴染みの関係ができており、保育園児や特養入所の方との交流も行われている。運動会や祭り・伝統芸能・相撲大会などへの見学をはじめ、地域の文化祭には利用者の作品を出展している。法人として自治会に加入しているが、ホーム独自の活動参加は十分ではない。</p>

2. 評価結果

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの公共・公益性をふまえ、地域のニーズに根ざした福祉を実現するための基本理念が掲げられているが、さくら荘独自の理念となっていない。	○	地域密着型サービス事業所として地域住民との交流など日常的に心掛けていることや大切にしていることなどを、誰にでも分かる言葉で表現されるよう期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日常のサービス提供を通じ、「笑顔」「利用者が何を望んでいるのか」を大切にしよう職員に指導し、理念の実践や徹底に努力している。理念はスタッフルームに掲示されている。	○	利用者・家族や地域の方々にも分かって頂くよう、理念を掲示しパンフレットなどにも記載し周知に努力されたい。日々の取り組みにそぐわない「書類上」の文言が散見されるので改善を検討願いたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭りや相撲大会・伝統行事などの見学が積極的に行われ、利用者が作った草履やお手玉等も地区の文化祭に出展している。買い物を通じ店員や地域の方との顔馴染みの関係もできているが、自治会活動や地域への広報活動はこれからである。	○	地域向けの広報活動の開始を期待したい。自治会活動への積極的な取り組みなど事業所と地域の人々が支えあうような関係づくりに努力いただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で評価項目に沿ってねらいや活用方法などを検討しサービスの質の向上にと努力しているが、全職員で計画的に取り組み評価・検討し、改善に生かしていく活動は今後の課題である。	○	自己評価や外部評価結果を活かし、計画的に全職員で具体的な改善に取り組むよう期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	さくら荘オープン後、推進会議が3回開催された。利用者や家族から出された要望や意見などが具体化されたり、グループホームの理解も深まったり、参加者同士の交流の場にもなりつつあるが、会議の議題に苦慮しているところもある。	○	二ヶ月に1回の開催に努め出された意見を活かし、住民とともにさらなるサービス向上につなげて頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場の担当者や民生委員の見学がある。地域包括支援センターの転倒防止予防教室を参考に入居者に適した健康体操を考案し、毎日実施している。	○	引き続き、市町村担当者との連携や協力を重視し、他事業所との交流や情報交換などで地域全体におけるグループホームのサービス向上につながるような取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活や体調をはじめ訴えや欲しい物・金銭管理など、面会時に口頭や写真で報告している。健康状態に変化がある時には随時電話連絡が行われている。	○	口頭報告だけではなく、文書や写真を掲載した「たより」の発行配布を期待したい。介護計画は初回だけでなく見直し後のものも配布して頂きたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地元の利用者が多く、家族とは何でも言える馴染みの関係となっている。運営推進会議では家族代表者に率直な意見や不満・苦情を言えるよう配慮され、出された意見は運営上に反映している。苦情相談窓口を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	オープン後一人の離職者が発生した。家族と相談し利用者によりタイミングをみて説明・納得してもらうなど、ダメージ防止に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に施設外研修への参加を促している。研修報告等を回覧して、職員間の共有を図ったり支援の見直し等の参考にしている。管理者は日常のサービスを通じ職員指導を行ったり、月1回の職員会議時にも学習に取り組んでいるが短時間で十分とはいえない。	○	利用者のサービスを向上させたいという職員の意欲は高い。会議時間の十分な確保を工夫し、議題や内容の整理・充実を図られたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内6カ所の同業者間の交流や研修を提案し、施設見学は行っており、他事業者にも何でも聞ける関係は出来ている。	○	施設見学にとどまらず、法人や自治体の援助も得て同業者との交流や研修会を推進されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者などの見学に応じ、事前に関係者から情報を収集している。入居後は自宅での状況とすりあわせ、居室や居間で過ごす時間を徐々に長くしていくなどの調整や、食事や趣味活動を通して他の利用者や馴染めるような雰囲気づくりも行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴の中から自信をもってできることを探し出し、利用者が意思決定できるような声かけや雰囲気づくりに配慮している。掃除や盛り付け・食器洗い・生け花など職員と一緒にやっている姿を見て、色々な事が出来るようになったと家族から喜ばれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	発言や行動の中から生活歴との関係を探り、本人の思いや意向を把握するようにし、出来る限り本人が意思決定できるような声かけに努めている。利用者本人による手紙や電話かけが重視され、家族への思いを伝える支援が行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の生活歴などはきちんと把握されている。日々の支援の中で利用者の気づきなどが検討される仕組みがあり、職員・家族・医師などの専門家と連絡をとりながら介護計画が立てられ、個別性のあるものとなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者に変化があった場合、適宜家族や医師への報告や相談の上介護計画の見直しを行っているが、十分とは言えない。毎日ミーティングが行われ現状に即したサービスの提供に心掛けている。	○	介護計画などの用紙の工夫改善と共に、モニタリングの実施と記録も定着させて頂きたい。一ヶ月に一回の見直しをされるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	天気の良い日には入居者の希望を聞き、行きたい所や買い物等にホーム専用の軽自動車で出かけている。看護師の配置もあり24時間健康管理が行われ、家族の安心感を得ている。病院受診時には職員が同伴している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけの医師に受診し、服薬・健康状態・生活状態などの情報交換が行われ、医師より適切な指導を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取り」についての指針は作成されているが、職員や家族・かかりつけ医などの関係者間の共有化はこれからである。	○	運営推進会議の場や診療所・協力病院などの関係者間での検討を進め、家族との話し合いを行い、全員で方針を共有できるよう努力されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者は目上の人であるという尊敬の念を持ち、全職員で言葉遣いに注意したり常に相手の気持ちに置き換えて対応されるなど個人が尊重されたものとなっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気のよい日には利用者に要望を聞き、買い物やドライブなど一人ひとりが行きたいところへ出かけたり、季節により水仙・紅葉・名所めぐり等に全員で外出している。食事利用者のペースに合わせた対応となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人の給食が利用され、盛り付けや片付けを職員と一緒にやっている。時々食材選びから準備・片付けまでの一連の料理を行うことがある。4月から朝食の下ごしらえを前夜に利用者で行うようになった。職員は朝昼同じテーブルで食べているが昼食時は弁当で夕食時は入居者のみの食事となっている。	○	グループホームにおける「食事」を生活支援の柱として位置づけて頂きたい。職員も入居者と同じ食事を食べられるような検討を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人週2回の入浴日が設定され、時間は自由でゆったり入れ要望に応じてシャワー浴も随時行われている。ほとんど見守りが必要である。運営推進会議では家族から毎日の入浴希望意見が出ている。	○	家族や利用者の要望を踏まえ、回数制限することなくいつでも入浴できるような支援体制づくりを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農作業や和裁の経験者にはホーム周辺の畑での野菜作りやふとんカバーを縫い付けてもらったり、生花の先生だった人には外に花材を取りに出かけ一緒に生けて共に完成を喜んだり、利用者の「出来る力」を引すような支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の散歩や買い物などをはじめ、行きたい時に行きたい場所に出かけていく支援がある。利用者は馴染みの店での理美容や洋服を買ったりする機会を通し、友人・知人と話すことを楽しみにしている。飛行場や喫茶店などにも出かけた家族からも喜ばれた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵は施錠していない。利用者の庭への出入りは自由に行われている。玄関の近くにカウンターがあり、利用者や訪問者の出入りが良く分かる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は毎月実施され、災害発生時の対応に備えている。法人として地域との協力体制があり、年2回の消防署との訓練も実施している。緊急連絡網は良く分かる場所に掲示してあるが、各種災害時の避難場所が不明確である。	○	各種の災害に備えて備蓄品の確保や避難場所の明確化を望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が立てた変化のある献立である。夜間の水分補給のために利用者の居室のポットやヤカンに配茶が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑が多く広いベランダではお茶を飲んだりと寛げる環境がある。居間には堀コタツやソファが備えられ利用者が心地よくゆったりと過ごせるようになっている。廊下には諸行事などの写真や玄関には入居者の方が生けた生花が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていたダンス・テレビ・炬燵・テーブルなどが持ち込まれ、できるだけ自宅にいた時と同じように配置され環境の変化を少なくするよう配慮されているが、馴染みの小物類の持込が少ない。	○	家族との連携や協力により利用者の馴染みの小物類を持ち込み、さらに居心地の良い居室作りへの支援を望みたい。